

B2B主体のビジネスから脱却を目指す動きが、三備産地の撚糸業者にも広がる。新型コロナウイルス禍の中、素材や用途自体の見直しが進み、新たな撚糸技術に挑戦する。

(小野亨)

三備産地の撚糸業者

撚糸業界ではこの20~30年、アパレル向けを中心には需要が大きく減少し、廃業が相次いでいる。三備産地も受託加工中心の企業が多く、昨年は新型コロナ禍が追い打ちをかけて受注が「3~5割減少した」との声もある。

この状況下、長年の

課題である独自技術の開発が進む。紡績でオリジナルの糸を作るのは難しくなりつつあるが、撚糸は原料、本数、撚り回数など無数の組み合わせがあり、各社は摸索を続ける。新たな糸を撚糸する際は糸の切り替わり、場合によつては設備の故障も懸念される。それでも各社は「数きから提案できる」「新規開拓に励む」(備後撚糸の光成明浩社長)体制を整えるなど、

(備後撚糸の光成明浩社長)体制を整えるなど、新規開拓に励む。

素材や用途自体を見直し

業 東洋撚糸工

業(広島県福山市)も、金属を用いた糸で自販の新規開拓を視野

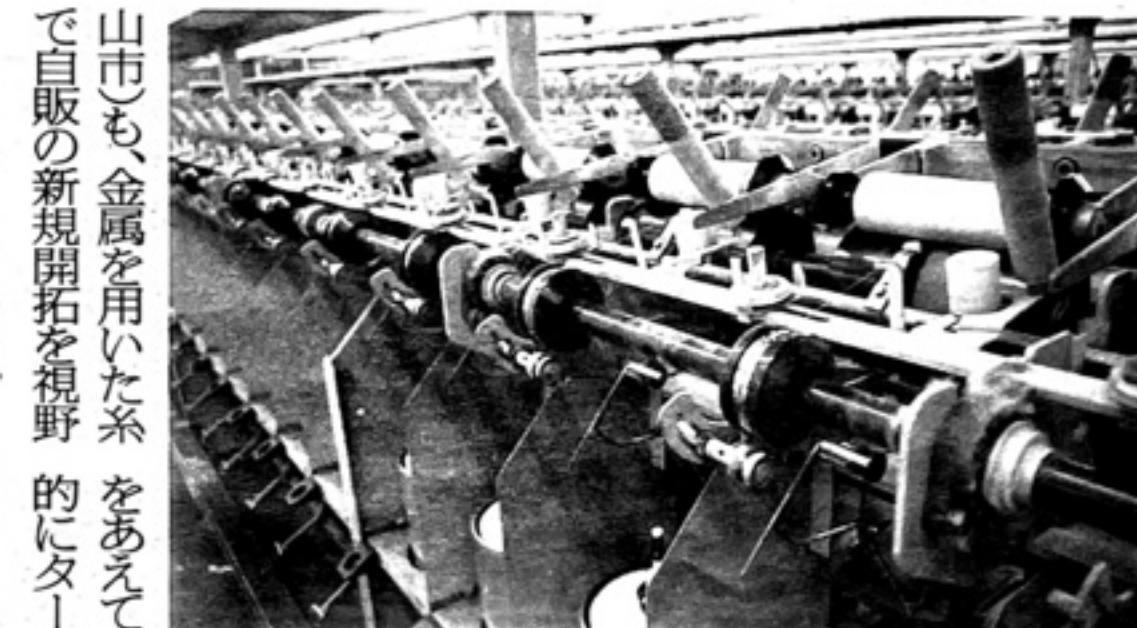
れる。山市)も、金属を用いた糸を入れる。最近は、ポリウレタン被膜銅線を芯糸に用いて電源コードそのものとして使える「系電線」を開発、特許を取得し商標登録も行った。

力バーリングの技術を活用したもので、LEDが付いた風船のコードなど企業の販促用途を想定。

高は新型コロナ禍の影響で前期比3割減だった藤憲資社長)と

同社は2009年から和紙糸「備和」で自販を強化しており、直近1年の自販の比率は35%から50%まで拡大。21年3月期売上高は前期比微減ながら増益を見込む。

最近は撚糸の素材や用



各社は撚糸業者ならではの取り組みを模索

新たなる撚糸技術への挑戦

途自体を見直し、抗菌作用が見込める銅線糸の提案を開始。「銅の光沢感をあって見せるか、綿の柔らかさを見せると、切り口はか、切り口は多い」(光成社長)と考へ、壁紙や防護服など多方面で新規開拓を図る。

山市)も、金属を用いた糸を入れる。最近は、ポリウレタン被膜銅線を芯糸に用いて電源コードそのものとして使える「系電線」を開発、特許を取得し商標登録も行った。

力バーリングの技術を活用したもので、LEDが付いた風船のコードなど企業の販促用途を想定。

高は新型コロナ禍の影響で改められた。受注獲得を目指す」(岡本嘉一郎社長)。

定した生産力を確保する「(小橋俊治常務)として、受注の獲得を狙う。」と開発。サンプルは完成しているが、「撚り回数を増やすなど、撚糸後の織り方、編み方の想定次第

して、受注の獲得を狙う。」と開発。サンプルは完成しているが、「撚り回数を増やすなど、撚糸後の織

が、年明けから受注が持ち直し、期売上高は前の期比横ばいの8億円超(海外自社工場含む)を確保してお士のカバリ、高耐久、細織度の撚糸の提案で今期も成長をめざす。「金属同士のカバリ、ソングなど難しい依頼もあり、極力制限を設け生産キャパシティ」を三専務)ことで巻き返しを図る。仕向け先台を保有する小橋(岡山県倉敷市)は、巻糸の異常監視装置と糸長の自動管理装置を設備更新。糸の品質向上とともに、「企業の体力を維持するための安